

景気動向調査

業況感、全産業依然として足踏み傾向を示す

令和元年7～9月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和元年7～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率68.0%

【主要な表現について】

○業況判断:調査対象企業が自らの業績に下した判断。 ○DI値:(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合)
悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲23.0で前回(2019年4月～6月)より1.9ポイント減少。

今回は建設業及び製造業、小売業の業況DI値で若干の改善傾向を示しました。

また卸売業は業況DI値前回▲9.1から今回▲24.0と減少傾向を示しました。

全産業売上高の推移：前回▲24.3ポイント(2019年4月～6月)から6.5ポイント改善しました。

前回調査と比べ製造業、小売業が改善傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲10.5ポイント(2019年4月～6月)から5.8ポイント減少しました。

前回調査と比べ卸売業、サービス業が減少傾向を示しました。

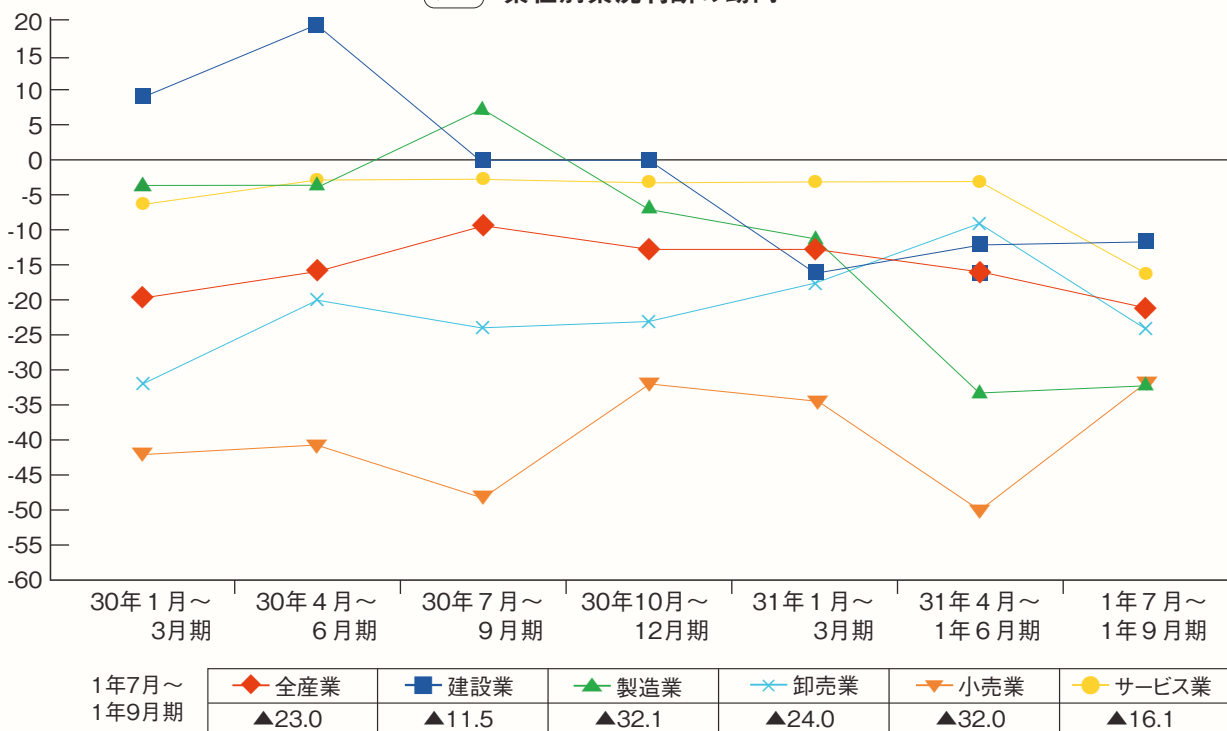
全産業採算の動向：前回▲21.5ポイント(2019年4月～6月)から1.1ポイント減少しました。

小売業が改善傾向を示しましたが、全産業依然としてマイナス値を示しました。

全産業雇用人員の動向：前回0ポイント(2019年4月～6月)から3.9ポイント減少しました。

特に製造業が減少傾向を示し、建設業が従業員の確保難を課題としてあげました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課第一課 TEL: 054-641-2000